

マスターズクラブ発足 10 年

ミレニアム委員会からの提言を受け、マスターズクラブが発足して 10 年が経過しました。第 1 回の会合は、平成 13 年 6 月 29 日に初代代表に第 14 代会長早野茂夫先生の下に、関西から第 20 代会長大城芳樹先生も参加されて会員とその進め方について意見交換を行いスタート致しました。

マスターズクラブは企業・官庁・大学等で定年を迎えられた会員を主な対象に発足致し、その後の社会の変化に対応し、広く現職に従事される方をふくめて当学会の 55 歳以上の約 100 名の会員が加盟して会員相互の親睦を図ると同時に、会員自らが培った知識・経験・知恵を社会に役立たせることを目的に活動しております。

組織・運営

当初は関東地区において組織化され早野茂夫代表に幹事数名と代表が指名した永山升三副代表によって運営されましたが、東海地区（平成 15 年）関西地区（平成 16 年）にもそれぞれの地区毎に幹事が選出され、相互に連絡し合いながら活動して参りました。早野茂夫代表の退任の際には、各地区の幹事により永山升三代表が選出されました。その後、先ず地区代表を選出し、さらに地区代表の互選により全体の代表を選出するよう規程が改訂され、永山升三代表から太田昌男代表にバトンタッチされ現在に至っております。

活動内容

談話会・MC セミナー

各地区においてタイムリーな話題提供と会員相互の親睦を目的に、談話会・MC セミナーを開催してきました。現在まで累計 56 回の開催を見ております。内容・形式は様々ですが、原則的に参加者は日本油化学会会員であれば自由に参加でき、講演会終了後には講師を交えて交流の場として、講演の内容理解・交流を深める場になっています。関東地区では隔年に伊豆高原ライオン（株）研修所で一泊、関西地区では祇園祭の機会に講演と交流を企画するなどユニークな催しを実施して参りました。演題と実績は JOCs Home Page マスターズクラブに、また昨年度より「オレオサイエンス」会務報告欄に要旨を掲載しています。

パソコン通信・Web サイトの活用

マスターズクラブの多くの会員が自宅等においてパソコンを活用している現状に鑑み、連絡・情報・意見の交換の場に e-グループメールを活用することに致しました。e-グループメールの組織は、その後 Yahoo! JAPAN によって運営されることになり¹⁾、現在はその機能を活用しております。

e-グループメールは jocs-mastersclub@yahoogroups.jp 宛に送信することにより全会員に同文のメールを伝達することができます。なお会員は Yahoo! の ID を登録しますと個々の情報・メール一覧も検索可能になっています。

メール活用の一つとして「リレーエッセイ」により、会員の専門知識だけでなく、意見・

随想などを送信し、同時に発信者は次回の執筆者を指名してバトンタッチ形式で繋げるルールによるエッセイの発信を開始しました。この発信が 100 回に到達したことを期に合本として「はばたけ！オレオサイエンス」を平成 20 年に発行致しました。「エッセイ」集として読み直してみますと会員の幅広い蘊蓄^{うんちく}が盛られていて、例えば教育の場で授業の中の挿話として、また企業での話題の材料となると好評を得ました。

Web サイトの活用としては、会員自らが培った知識・経験・知恵を社会に役立たせるために ICT（情報通信技術）を活用して、油化学会から外部に発信する手段としての JOCS Home Page を通じて会員の業績を Net に掲載するよういたしました。マスターズクラブ会員では、大学ほかの研究機関を退職されますと、旧所属の機関の URL から削除されるなど多年にわたる貴重な業績等の情報が検索され難くなることを見受けられます。そこで、会員自身で作成された「履歴・業績」を PDF の形式で掲載できるようにいたしました。また併せて、URL をお持ちの会員には、そこにリンクできるよう設定して便宜を図りました。

その「履歴・業績」の公表範囲（個人情報を含め）は会員個人の責任に属しますが、Net 上に公開されることにより、広く世界的な検索ツールにアクセスされ、引用される成果が得られております。

知識・情報の伝達とマスターズクラブの役割

20 世紀の知識・情報の膨張は爆発的であり、論文誌「*JOS*」の発行による国際化されたことは喜ばしいことですが、一方、専門化・細分化も著しいと言えましょう²⁾。先の 8 月のリレーエッセイに広大名誉教授鹿山光先生から辻本満丸先生以来魚油研究者によって二重結合を 4 個以上有する多（価）不飽和脂肪酸を特に「高度不飽和（脂肪）酸」とされた呼称に乱れがあること、それが理農工系と医化学系の用語に差があると指摘され、用語を正しく守る活動も会員の役目と感じました。

科学知識の一般社会とのコミュニケーションの大切なことは、身近で最近多くの例がみられます。マスターズクラブでは、専門部会と連携してこの問題に取り組むこととし、「どう理解する：トランス脂肪酸と健康」をオレオライフサイエンス部会と共催で啓蒙活動を行いました（平成 23 年 12 月・昭和大学）。科学技術を正しく伝達し、社会全体に科学リテラシーを高める必要が増加しています。そのための旗印として「美しく、健康で、清潔な国民生活のためのオレオサイエンス」を提案し、マスターズクラブの活動を学会の内外に広める方針です。

- 1) 永山升三、オレオサイエンス 4 388(2004)
- 2) 永山升三、オレオサイエンス 8 195 (2008)

(平成 24 年 2 月作成 永山升三)